



Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 19, 63-65
Issue Date	1993-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/25865">https://hdl.handle.net/2115/25865</a>
Type	other
File Information	19_P63-65.pdf



# 研 究 室 報

## 講 義 題 目 (1992年度)

独 語 学 概 論		植木迪子・清水 誠
独文学史概説		青 柳 謙 二
独 語 学	独語学の基本	植 木 迪 子
独 語 学	Landeskunde	植 木 迪 子
独 語 学	中高ドイツ語とドイツ語史	清 水 誠
独 語 学	文法論とコンピュータ (2)	松 村 保 寿
独 語 学	Sprache im Alltag	Franz Schneider
独 文 学	近代ドイツ叙情詩の変遷	新 妻 篤
独 文 学	Wortbildung	Michael Haas
独 文 学	Sprachkurs (Mittelstufe)	Barbara Wiegele
独 文 学	テキスト読解の実際	石 原 次 郎
独 文 学	テキスト読解の基礎	石 原 次 郎
独 文 学	Walter Benjamin	恒 川 隆 男
独 語 学 演 習	Syntax und Pragmatik	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	北ゲルマン語演習	清 水 誠
独 語 学 演 習	Gesprächsanalyse	Franz Schneider
独 文 学 演 習	Einige moderne Erzählungen und deren Interpretationen	
		青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	
		青 柳 謙 二
独 文 学 演 習	文学研究における「主観」と「客観」	石 原 次 郎
独 文 学 演 習	Westliche [Sprach]verhaltensmuster in kontrastiver Perspektive	
		Franz Schneider

## 研究室行事記録

◎1992年2月22日に北海道大学文学部301号室において1991年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。

◎1992年には文学部で下記の研究会がもたれた。

・4月25日

一 瀬 幸 司 「Präpositionalphrase—機能と特性」

・7月25日

一 瀬 幸 司 „Probleme mit der Beschreibung der deutschen Präpositionen“

萩 原 達 夫 „Theoretische Grundlagen der fakultativen Bewegungen“

### 〈留学関係〉

◎1992年8月に塩谷幸子氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

◎1992年8月に小川 了氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。

◎1992年9月に田中 慎氏がパッサウ大学へ留学のため出発した。

◎1992年9月に中祢勝美氏がハンブルク大学へ留学のため出発した。

◎1992年9月に名執基樹氏がジューゲン大学から留学を終え帰国した。

☆1992年5月9日に総会が行われ、幹事選出、入会報告等が行われた。

## 1991年度論文題目

### 卒業論文

- 渡辺 斉志 : Robert Musil „Die Vollendung der Liebe“ 論  
平野 昌子 : L. A. von Arnimの „Hollin's Liebeleben“  
佐々木 博絵 : Luise Rinserの „Das Squirrel“ ルイーゼ・リンザーの『なしの木精スケール』  
高津 千絵 : グリム御伽噺-日本における受容  
林 馨子 : GOETHE „Auf dem See“ 解釈の試み  
広田 尚子 : Wolfgang Borchert „Draußen vor der Tür“ 研究

### 修士論文

- 荻原 達夫 : Zur Struktur des Mittelfeldes im Deutschen

## 北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
  - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
  - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

本会に賛助会員をおく。